

| 科 目 名 | | 学 年 | 単 位 | 授 業 時 間 | 科 目 区 分 | 授 業 形 態 |
|----------------------------------|--|--------|----------------------------------|--|-------------------|---------|
| 経営情報工学特別研究: Special Research | | 1,2K | 14 | 630時間 | 必修 | 研究・通年 |
| 教 員 名 | 特別研究指導教員 | | | | | |
| 授 業 概 要 | 技術者として、幅広い工学の知識と技術を駆使し、必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見出すことができる能力が要求される。特別研究では、担当教員から与えられた研究テーマを通し、創造性や課題探求・解決能力を養うことを目的とする。学生は1年生の初めに提示された研究テーマの中から選び、そのテーマの指導教員のもとで2年間継続して研究を行う。研究テーマに対し、研究計画を立て、指導教員と相談しながら研究を進める。最後に特別研究論文としてまとめ、特別研究発表会で発表する。研究成果は、学外の学協会などで講演発表を行う。 | | | | | |
| 到 達 目 標 | | | 評 価 方 法 | | | 評 価 配 分 |
| (1) テーマの背景について調査し、研究計画を立て実行できる。 | | | (1) 文献調査及び研究計画の報告により評価する(主査) | | | 20% |
| (2) 得られたデータについて理解し、解析、考察ができる。 | | | (2) 特別研究論文により評価する(主査) | | | 40% |
| (3) 研究内容について概要をまとめ、プレゼンテーションできる。 | | | (3) 特別研究発表会及びその要旨集により評価する(主査・副査) | | | 20% |
| (4) 研究内容を論文としてまとめることができる。 | | | (4) 特別研究論文により評価する(主査・副査) | | | 20% |
| 学 習 ・ 教 育 目 標 | | (D)①②③ | JABEE基準1(1) | | (d)-(3), (e), (h) | |
| 回 項 目 | 内 容 | | 回 項 目 | 内 容 | | |
| 授 業 計 画 | 指導教員の指示により研究を進める。 1年生の3月に中間発表を、2年生の2月に特別研究発表を行う。 | | 研究室名 | テーマ名 | | |
| | | | 伊藤研究室 | 1. 企業経営の成功と失敗に関する研究 2. 系列企業の構造分析 3. ドメインコンセンサスの測定 | | |
| | | | 内田研究室 | 1. CMS版経営シミュレーションゲームの開発 2. インターンシップ管理支援システムの開発 | | |
| | | | 武藤研究室 | 集団知としてのソーシャルブックマークに基づくWebページの信頼性の推定 | | |
| | | | 松野研究室 | 企業間関係における情報共有のモデル分析とその応用 | | |
| | | | 岸川研究室 | 公的統計を援用した地域社会システム分析 | | |
| | | | 田川研究室 | 1. 組織間管理会計 2. 監査意見に関するネットワーク分析 3. テキストマイニングによる有価証券報告書の分析 | | |
| | | | 朴研究室 | 1. グラフ理論を用いた企業間関係の分析 2. 日本企業の再生戦略 | | |
| | | | 荒川研究室 | 統計的手法を用いた有機化合物の発がん性予測 | | |
| | | | 狭間研究室 | サプライチェーンにおける情報共有の解析 | | |
| 自 学 自 習 の 内 容 | 研究課題の分析結果をレポートしてまとめる課題を課す。 | | | | | |
| 関 連 科 目 | 全ての科目 | | | | | |
| 教 科 書 | | | | | | |
| 参 考 書 | | | | | | |
| 授 業 評 価 ・ 理 解 度 | 最終回到授業評価アンケートを行う。 | | | | | |
| 副 担 当 教 員 | | | | | | |
| 備 考 | 国際学会での発表、レフリーのつく学会論文集への掲載については、学生表彰の対象にしている。 | | | | | |